

【大学等・一般の部】優秀賞

挨拶から始まる希望

日本文理大学附属高等学校 教諭
長尾 友則

私は、昨年転職して、勤務先が別府から佐伯に変わりました。佐伯は、中学と高校の青春時代を過ごした地でもあり、懐かしさにあふれていました。ですが40年ぶりの佐伯の町は、私の青春時代と比べると、ちょっと寂しい感じもありました。それは、商店街の活気だったり、交通量の少なさだったり。観光で人気のスポットもありますが、それも一部で、私の通った中学校も過疎化、少子高齢化の影響で生徒数はかなり減っていました。

そんな佐伯で、今年の通勤途中の出来事が、私の希望になりました。それは、何気ない会釈から始まったのです。

通勤途中の信号のある横断歩道のある場所に、いつも交通指導をしている若いお巡りさんがいました。私も転勤したばかりでしたので、まだ子どもたちが登校していない時間から、仕事とはいえ大変だなと思っていました。その若いお巡りさんと、4月のある朝、ふと目が合ったので、私は車の中から軽く会釈をしました。次の日の朝、今度はお巡りさんの方から会釈してくれたので、こちらも頭を下げながら通過しました。それからは、毎朝笑顔で会釈を交わすようになりました。私はそこを通過するとき、お巡りさんを見ては安心し、一瞬の会釈で気分爽快な気持ちで仕事に行けたのです。

残念なことに、この4月からその若いお巡りさんは転勤になったようで、会うこともなくなってしまうのでした。わずか一年足らずでしたが、気持ちの良い、楽しい習慣でした。私は、この気持ちのいい習慣を続けようと思いました。

私の仕事は高校の教員です。挨拶は、子どもたちとの大切なコミュニケーションです。これまで数カ所の学校現場や地域で、担任や生徒会担当となり、挨拶運動やら、進路でのマナー指導やらで、生徒の将来にきつと役立つからと、挨拶はできて当たり前という気持ちが先に立ち、私にとって挨拶は指導の一部になっていました。

また、ここ数年は、生徒から「おはようございます。」と挨拶されることがあまりなく、こちらから声を掛けないと、挨拶してくれないことが多くなったと感じていました。

でも、義務を感じてする挨拶は疲れます。仕事と同じです。うまくいかないときは、落ち込んだり、腹が立ったりします。どうして・・・と考えてしまいます。

これではいけないことに気付きました。挨拶は、義務でするものではありません。そして、相手に期待したりしなくていいのです。今年の若いお巡りさんとの会釈のように、自分が自然と目の前の人に挨拶できればいいと思いました。

これから、佐伯は少子高齢化に過疎化が今より進んでいくかもしれません。そして、核家族も多くなって、ご近所づきあいも減っています。人と人のつながりが希薄になりがちな現在の風潮です。そんな時だから、挨拶すること、声に出さなくても会釈することで、少しずつ町の雰囲気明るくなっていくことができると感じています。あの若いお巡りさんとの出会いのように、私たちの周りには、まだ会釈したことのない人がたくさんいます。

私は今も、生徒より先に「おはようございます。」と挨拶することを心がけています。でもそこには希望があります。いつか、誰もがさわやかに挨拶を交わす学校になるように、そして、生徒たちが、自分の周りの人たちに、その輪を広げていくようにと。